

大正七年三月十日發行

婦人と子ども

第十八卷
第三號

フレーベル會

婦人と子ども 第三十八卷
第三三號 目次

園丁雑感	倉橋惣三
親しむ心	倉橋惣三
米國の婦人と子供	佐々木吉三郎
新入學の尋常一年生	北澤種一
幼兒訓練の標的(一)	佐々木吉三郎
動物園あそびの記	よ
燕の玩具	はる
三月と兒童	子
大正幼年唱歌集の完成	村尾節三

日本 の 年幼本

□ 倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い嘶とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添えます。

本誌は、玩具とお囃しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

定 價

壹冊 拾二錢 □ 半年 郵稅共七拾五錢
郵 稅 壱 錢 □ 壹年 同壹圓四拾四錢

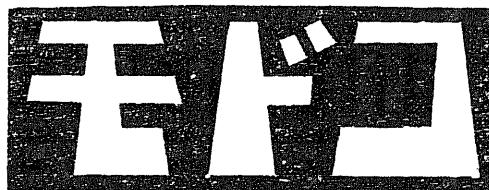
御大典記念畫報婦人畫報
皇族畫報少女畫報
日本幼年

發行所

(東京)京橋鍛冶橋外
振替 東京四九〇〇

東京社

顧問高島平三郎先生先哲



色特大四の誌本

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覽になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

はじめて教育的なこと

繪が叮嚀で美麗なこと

お話を易しく面白いこと

片假名のみで讀易いこと

□定價一冊十二錢
□郵稅五厘
□六冊郵稅共六十九錢
□十二冊一圓三十一錢
□郵稅共五十錢
□總て前金の事
合本定價
各集郵稅共五十錢

婦人と子ども

第十八卷 第三號

園丁雑感

3

『自然と一致する』とは子供の幸福である。子供と一致することは教育者の幸福である』とはスタンレー・ホールの名言である。而して私は此の名言から次の演繹をする。教育者が子供と一致し得る爲には自然と一致し得る人でなければならぬと。自然と一致し得るとは、自然を愛するとか、自然に趣味をもつとかいふ位の輕い意味でもいい。

すべての子供は或る意味に於ての自然詩人である。自然に關する彼等の感情も思想も皆潤澤なる詩味に富むものである。殊に彼等の自然趣味は、所謂美しい自然に止まらず、あらゆる自然物に對して生き〜として動く。小さき土塊、かけたる貝殻、ありふれた小石、枯れた木の葉、こんなものでも、何一つ彼等の自然詩の域内に入らぬものはない。況んや美しい自然に對して。

人は皆詩人であれを要しない。況んや作詩の人であるを要しない。しかし、人は皆自然に對して趣味を持つ人でなければならない。人事繁忙の間、自然との接觸に絶えず活潑なる感興を有し得る人でなければならぬ。假りに繪畫や音樂の藝術的鑑賞力を有しないとしても、自分の四圍の自然に對する感興を缺いてはならない。之れは詩人藝術家として必要なこと、いふよりは、あたりまへの人として是非有しなければならぬ資性である。此の意味に於て、少くも此の意味に於て、彼が詩人であるといふことは、彼があたりまへの人であるといふことである。自然に對して無趣味無感興の人、あたら玉の盆底なきが如しとやいはん。

○
自然を愛し、自然に趣味を持つといふことは、人の子の教育者として、最大切な資格の二つである。(倉橋生)

親しむ心

倉橋惣三

一

大勢の子供の中で、時々斯ういふ子供に會ふことがある。其の時私の心は、丁度胸の中へ何かの塊りでも出來たように重苦しくなる。ぢつと其の子を凝めながら、見るのも苦しく、見ぬのも苦しいと言つた様な妙な心持ちになる。——私は斯う書いて來て、あのバーンスの有名な詩を思ひ出した。それはバーンスの目の前をこそぐと逃げてゆく野鼠に對して歌はれた詩である。敏感なバーンスは、その野鼠の、自分を怖れて逃げてゆくのがつらかつた。そうして、人間の世界にある無情が、こんな罪もない野鼠に、何といふこともなく人を怖れさせることを、野鼠には憐れに、自分には悲しく思つた。『まあお前、どうして、そんなに

怖れるのか』といつた心持が、こまかい感情に充ちた詞句で歌はれてある詩である。

つらい、つらい。しかも人間同志。しかも無邪氣な子供であるのに。勿論野鼠の様におち怖れては居ないが、何故もつと懐しく飛びついて來ないのか。何故もつと親しく抱きついで來ないのか。せめては、何故もつと心おきなく私を受取つては呉れないのか。なんにもそんなに額を重くすることはないではないか。目を暗くすることはないのではないか。何故もつと上を向いて、何故もつと明るい目で、安心して、平氣で私を見ては呉れないのか。何故もつと親しむ心を持つては呉れないのか。

二

もとより、こちらにも責任があらう。しかし、それは暫く後まわしの問題として、子供の中に此の親しむ心の發達を阻害せられて居るものゝあることは事實である。而して此の事實が、其の子の現在にとつては勿論、其の將來に對しても、甚だ不幸なことであるといふことが、從來餘り重く考へられて居ない感がある。そんなに心配しなくてよい、子供のいたづらや不行儀などばかりが問題にされて、此の人の子として一番に貴く美しい天真の情性の教育が往々にして忘られ勝ちなのは、教育の誤謬といはうか、教育者の淺薄といはうか、確に一つの缺陷である。

人間對人間の關係は、上に下に横に或は斜めに、頗る多趣多様である。しかも、其の共通の根底は親しみである。親しみの種々のあらはれが其の場合に適當した心狀と態度との區別を必要とするはいふ迄もないけれども、それは總て、親しみの根に咲く花のいろ／＼である。其の花の色や

形はさまざまであつても、其の生きたうるほひは皆此の根ばかりから湧く、親しみのない尊敬、親しみのない慈惠、親しみのない協和、そんなものは無い筈であるが、若しあつたら、それは作り花の様なものである。根のない處には枯れる。親しみのない處に人間は枯れる。自分も冷く、人も冷く、世も冷く、一切が冷く枯れる。

勿論人生は理想の樂郷ではない。うつかり親しんで、どんな苦い目にあふかも知れない。世間萬事用心のこと、言ふ說もあるかも知れない。それも頗る尤もなことであり、又大切な注告である。

實際、人を鑑る賢さは、人に對する親しみの心の次に一番大切なことである。しかしそれは、夜道を急ぐ主人の爲の提灯である。走る船の爲の水先案内である。強く／＼豊潤に人を親しむ心があつての上の賢さである。況んや、提灯ばかり先きへやつて、自分では出懸けられない萎げた主人、水先案内ばかりを苦勞して、どこの港へも入り得な

い船。そんなものに何の價値があらう。徒に用心深く、人を氣遣ふ心や、無暗に遠慮々々と氣兼ねばかりが先きに立つ性や、こんな習癖のそれ自らに何の價値があらう。ましてや、明日すぐ六かし世間といふものへ出るのではなし、大膽に豊満に、天を親しみ、地を親しみ、人といふ人のすべてに親しみ得るのが、眞に子供の幸福で、而して特權といふものではないか。

三

人に親しむ心は、人に親しむの經驗によつてのみ養はれる。人は親しむべきものだと教へても、人は親しいものだと説き聞かせても、恐らくほんとうの味は分らない。味は味はつてのみ分る。若し親しむの心に於て缺くる子供があつたら、その子に人を——私を親ませ、味はせるの他はない。これが此の點に關する唯一の教育法である。教育者が、心得て居なけねばならぬ教育の秘訣はいろいろある。しかも、その中で一番肝心なのは此の

子供に自分を親ませる秘訣である。しかも、これは秘訣といふには、餘りに其の人に着いて居ることである。寧ろ教育者の資質といつた方が適當であらう。又、方法といつても、強ゐてする世辭や愛嬌で出来ることではない。寧ろ其の人自身が、先づ親しむ心を持つて居て、それから出る暖かさと、柔かさとさうして何よりも其の眞實が子供を引きつける他はない。

米國の婦人と子供

—フレーベル會二月常會講演筆記—

東京高等師範學校教授 佐々木 吉三郎

私は幼稚園のことを特別に深く研究して居るわけではありませんので、この會へ上りましてお話をることは些か不適當であります。過日米國へ行つて参りましたので、その時の見聞感想でも話すやうにとの御依頼でありますので、今日伺つたやうなわけであります。

それで演題はフレーベル會の雑誌の題號が「婦人と子ども」とありますので、それを其儘拜借して「米國の婦人と子ども」と致しました。しかし近い内に又本校の方でも渡米談を致すやうになつて居りますから一般的のお話はその時にするやうにし、今日は幼稚園教育に關係のあるやうな點のみを拾ひ上げてお話してみやうと思ひます。

一體に亞米利加の子供——と申しましても主に農夫の子が多いのであります。——は大ざつぱであります。物事がすべて粗大なのであります。

これが亞米利加の社會がその通りなのであります。丁寧なところがありません。綿密なところは些かもないのであります。これは亞米利加といふ國がまだ若い國であります。創業の際でありますから細かなところまでは注意が及びかねるといつたわけなのであります。

尤も亞米利加の子供と言つても一概に大ざつぱとばかりは言へません。大都市の子供と田舎の子供とはその氣質が大いに違ふのであります。一體亞米利加の都會はどれも皆古い歴史を持つてゐる

のなぞはありません。一寸景氣のいいところだとドヤ〜〜と人が四方から押し寄せるのであります、而して五十年と經たぬ内に大都會が出來上つて了ふのであります。

亞米利加には、國か原か譯の分らぬ程だやつ廣い、手のつかぬ、茫漠たる原と何十階といふ建物、が押合ひへし合ひして立ち並んで居る都會とがあるのです。故に田舎に生れた子供は、極めて大ざつぱであります。都會に生れた子供は歐羅巴の子供と同じく檻の中に閉ぢ籠められた動物みたいな境涯にあるものもあります。

が、しかし、大觀して亞米利加の子供は、よく言へば自由、わるく言へばほつたらかしにされて居るのであります。全くの放任主義なのであります。下等社會の子供は殊にほつたらかしになつて居ります。これは又こうなるわけであります。亞米利加の夫婦は主もに若夫婦であります。一つ亞米利加へ行つて金儲けをしやうと言つて集つて来る

るのは血氣の若い者なのであります。これが少しお金を儲けると妻を迎へる——まあ亞米利加に集るのは若い元氣のいい、因循してゐない連中ばかりであります。一くせも二くせもある人間の集まりなのであります。我國の話にしたところがさうであります。青島が景氣がいい、樺太へ行くと金になると言つた調子で郷闘くわいを飛び出すのは皆若い連中であります。老夫婦は故郷に残して行くのであります。而してわるくすると所謂食詰者若しくは札附きの連中が眞先に斯ういふ新開の土地へは流れ込むわけであります。斯ういふ連中が移植した土地でゆつくり子供の面倒を見てゐさうな筈がないことは一寸考へて見れば直ぐ分るのであります。

殊に亞米利加のやうな「ナチュラル・リソース」に飛びついた若夫婦が子供にかまつてゐないといふことは別に不思議でも何でもありません。早い話が子供は生きてさへすればいい、といふことになつて來るの

であります。若夫婦が野良へ仕事に出掛ける時に子供は後を追はうとします。夫婦は容赦なくこれを摑へて、飛行家が機臺へ乗つた時のやうに、バンドでもつて椅子へ括りつけて了ひます、而してそのまわりにはお菓子や牛乳や氷砂糖を並べます、これで若夫婦は外から鍵をかけ、二人相携へてさつさと出て行つて了ひます。後に一人取残された子供は口惜しさうにわめき立てますが誰も来ては呉れません。仕方がないので泣くことには見切をつけてお菓子でも食べて一人で退窟な思ひをしながら父母の歸りを待つてゐるといふことになります。子供がもう少し大きければ若夫婦は外出の際、外から鍵を掛けたゞけで出掛けて行つて了ひます。これが下等社會の普通の有様であります、この位にしなければ却々短日月の間に成功することは六ヶ敷いのでありませう。まあ植民地氣分とでも言ふのでありませうか、止むを得ないところから子供をこんな風にも取扱ふのであ

ります。こんなわけですから、亞米利加に於ては幼兒の死亡率が却々多いのであります。アメリカン・インディアンなどになりますと三人の赤ん坊は三才になるまでに一人死ぬ割合になつて居ります。これなどは率の甚しいものであります、これは後に至體に幼兒の死亡率は大であります、これは後に至つて幼稚園の必要といふことを説く時の伏線になります。

私は亞米利加から歸ります時、天洋丸に乗つてまゐりましたが、或る日、この船の甲板で一人の西洋婦人が編物をして居りました。その傍には丸二才位の子供が夏蜜柑を持つて遊んで居ります。母親は編物に夢中です、子供は船が右左へ搖れるので、轉んだり、匍つたり、立つたりして、夏蜜柑を相手に一人で遊んで居ります。子供が轉ばぶが、倒れやうが、海に落ち込む憂ひのないことが分つてゐる母親は嘗つて知らざるものゝ如く編物に耽つて居りました。それから下の部屋へ行つて

りませう。こんなわけですから、亞米利加に於ては幼兒の死亡率が却々多いのであります。アメリカン・インディアンなどになりますと三人の赤ん坊は三才になるまでに一人死ぬ割合になつて居ります。これなどは率の甚しいものであります、これは後に至體に幼兒の死亡率は大であります、これは後に至つて幼稚園の必要といふことを説く時の伏線になります。

私は亞米利加から歸ります時、天洋丸に乗つてまゐりましたが、或る日、この船の甲板で一人の西洋婦人が編物をして居ました。その傍には丸二才位の子供が夏蜜柑を持つて遊んで居ります。母親は編物に夢中です、子供は船が右左へ搖れるので、轉んだり、匍つたり、立つたりして、夏蜜柑を相手に一人で遊んで居ります。子供が轉ばぶが、倒れやうが、海に落ち込む憂ひのないことが分つてゐる母親は嘗つて知らざるものゝ如く編物に耽つて居りました。それから下の部屋へ行つて

みますと亞米利加歸りの日本人の若夫婦が子福者と見えて六人の子供を連れて居ります。皆亞米利加仕込の服装をして「エーはつるいぞ」とか「ミーにくれる」などといつて子供同志でさわいで居ります。するとこの日本人の父母は子供の一言一動に氣を配つて「そんなことを言ふものぢやない」とか「そつちの方へ行くんぢやありません」とか「ソラ／＼言ふことをきかないものだから轉んだ」とか、口矢釜しく子供等に干渉して居りました。

私は子供を自由に遊ばして置く西洋の母親とおせつかいな口矢釜しい日本の父母を見て、彼我の教育法の差異がこんな點にまで現れて居るかと興味深く之を觀察したのであります。どつちにしたところが何も大して主義があつてやつてゐるわけではありますまいが天洋丸の乗客の子供の取扱方を見てこんな風なことが考へられたのであります。あちらのは自由にして置いていろんな目に會はしてやる、さうすれば自から悪いことを知つて

斯ういふ風に自由にしてゐて、いろ／＼の経験

しなくなるといふ遣り口なのであります。日本では善かれ惡しかれ、子供が興味を感じて爲さうとする經驗を皆それはいけないからと言つて奪つて了ひます。それですから、あちらの子供が十の經驗を積む間に日本の子供は四つが五つ位の經驗しか積むことが出來ません。或る時「教育家の理想」といふ西洋の名畫を見たことがあります。子供が崖の上で遊んで居て、女神がその上で手をひろげて居る畫であります。女神はチツとも子供に干渉しません。たゞ慈悲深いまなざしで子供の上を見守つて居ります、もし子供が崖の上から落ちさうな場合があれば女神は直ちに子供を助けて呉れることが出来るやうな姿勢をとつてゐます。この畫は全く西洋の教育理想をよく現して居ります。日本人のは崖の上に遊んでゐる子供の首ツ玉を抑へつけて身動きをさせまいとして居るのであります。

を積むやうに任されてゐますので、亞米利加の子供は非常に獨立心に富んで來ます、さうして何でも出來ることは自分でやるといふやうに自活の風が養はれて來ます。亞米利加の小學生などは十五才のものが立派に自治によつて他人の世話にならずにやつて行きます。レーン・テクニカル・スク

ールだのハリソン・テクニカル・スクールだのといふ學校は晝三千夜三千の學生を收容しますが學生の間にピューピルズ・セルフ・ガバーメント（學生自治制）といふものが成立してゐますので些の混雜澁滞なく課業を受けることが出来るのであります。毎日鎮臺のやうに三千もの學生が黒くなつて出入するのですから日本の校長さんなら忽ち神經衰弱に罹つて了はうと言ふのです、しかし學生同志自から治めて行く亞米利加の學校の校長さんは學生の數がいくら多くてもチツとも困らないのであります。

亞米利加の學生は又學藝會といふやうなものを

組織して居りまして、中學校、高等女學校の一年生位の子供がどん々立派に會務を果して行くのであります。例へば學校の友達が死んだなどといふ場合には集つて追悼會を開いたり、醸金して花環を贈つたり、その會計報告をしたりするのであります。

つまり、亞米利加の子供は自由に澤山の經驗を積ませられるのであります、而して若し不都合のことがあればそれを再びしまいといふやうになつて漸次自律的になつて行くのであります。

日本の子供はすべて他律でやつて行きますから何時まで經つても自治に達することが出来ません、經驗で行はすに暗示で行つてゐるからいけないであります。或るものをしてお腹が痛くなつたといふ経験を持つてゐればそのものが如何にうまさうに見えても自律的にこれを食べやうとはしません、しかし日本の子供のはこれを食べるときお腹が痛くなるさうだから食べまいといふので、

本當に食ふべからざる理由を知つてゐるのであります。それ故干渉されないと、ツイうまさうだから一う食べてみたくなつたりなぞするのであります。

まして、何時まで経つても他律であります。他律も或程度まで結構であります、しかし何うしても他律は自律まで突き通らなくては駄目であります、他律だけに止まつてゐるのでは困ります。

學校にある内は一々「立て!」「禮!」と號令をかけられて來たものが、卒業するともう號令のかけてがないために、直ぐ戸惑ひをするといふやうではいけません。日本でも小學校の四五年位になつたらば大いに自治の習慣をつけてやるやうになければなるまいかと思ひます。日本の手がまわりすぎて反つていけない結果に到達するのであります。丁度華族の子なぞがあまりに大切にされ、世話をされすぎるために、やくざものになつて丁ふのと同じであります、眞の自由といふものは自律的人にして始めて持ち得るのであります。つ

まり自律的であるから自由であり、自由である故に獨立心が發達し、反省する力も生じて來るのであります。

亞米利加の子供は自由に經驗を積みますので、その内にはいろんな目に會ひます。従つて常識が發達してゐます。向ふの小學校には別に修身科などといふものはありませんが子供は皆正直であります。あちらでは、小包などの郵便物を出す時にポストの中に這入らない大きなものは、箱の上へ乗せて置いて、平氣で歸つて來ます、中には指輪があるか、金時計があるかわかりませんが、いくら澤山積み上げてあつても、大人も子供も誰一人それに手をつけるものはありません。

これはたとへ他人が見てゐずとも、巡查が見張つてゐなくとも、自分は決して悪いことはしないと堅い決心のあることを示してゐるので、米國の人は自分で自分を治めて行くのであります。他人が見てゐやうとあるまいと、そんなことは眼中にな

いのであります。

それから又米國の子供の感心なことは行儀作法のいい事であります。例へば教場で先生がお稽古をして居られる時に、他の先生から何か御用をたのまれて、使ひに來た生徒があるとしますと、戸を開ける前に、コツ／＼と戸を叩いて合図をして「お這入りなさい」とこちらの先生が答へると、静かに戸を開けて、爪先でそうつと音のせぬ様に這入つて來て、先生の耳に口をよせて、他の生徒の邪魔にならぬやう、小聲で用向を傳へます、そして又音のせぬやうに静かに歸つて行きます。決してバタンと戸を締めたりなどいたしません。又私達のやうな參觀人が教場へ入つて行きますと先生が何も言はなくなつても、入口の側にある子供達はすぐ立ち上つて、椅子を持つて來てくれます。算術や書取などをやつてゐる時に、机の側によつて見やうとしますと、日本の子供ならば、手で隠したりする處ですが、決してそんな事はなく、

書き終ると、參觀人の方へ帳面を向けて見せます。

本を讀んでゐる時だと、自分の本を參觀人に見せ、自分は隣の人の方へ寄つて、見せて貰つてゐます。こんなことは一々先生の命令を待たずにするので、如何にもよく氣が付いて、親切なことは丁度自宅にお客の見えた時に、火鉢を出し、お茶を出して、おもてなしをするのと同様であります。

それで私達は、あまりお稽古の邪魔をして悪いと思ふと、手真似か、小聲でもうそれには及びませんと断ります。すると、それを止めて又静かにお稽古を受けてゐます。こんな處は日本の子供とは大層違ふと思ひます。日本の子供は忠君愛國だの、一旦緩急あらば命を捨て、國に盡せのと、偶にしかないことにやかましい議論を聞かせられてゐますが、もとより結構なことには違ひありませんが、平生かうした人に接する心掛が一向出來てゐないのは困つたものです。日本の子供は學校といふところは一種特別の場所のやうに考へてゐ

て、家庭に居る時とは全然違つた氣分を持してゐ

なければならぬやうに思つてゐます。尤も學校は家庭と較べると建物からして違つては居るのですが。それで子供は自宅へ歸ると始めて眞人間になつたやうな氣がしやうと云ふのですから一寸困ります。

それから亞米利加の子供のいゝ點は彼等がフランクネスを持つてゐるといふことです、つまり無邪氣と言ひませうか、のんびりとして居る點がいいのであります。應揚に、素直に、のんびりと育つてゐる亞米利加の子供は大人に會つてもチツとも羞んだり、逃げ隠れたりなどしません。往來で會つて道などを聞くとハツキリとよくわかるやうに教へてくれます。私達が小學校へ參觀に行つて校長さんに取次ぎを頼んだりすると喜んで取次いて呉れます。校長室に校長さんが居ないと歸つて來て「これから行つて探して來ますから、しばらく待つて下さい」などと、却々行届いた應接

振りを見せます。

教室を參觀して居る時なども、先生が「ジヨーン、暗誦をやつて御覽なさい」とか「アンナ、唱歌をおうたひなさい」とかいふとどんく立つて惡怯れずに命ぜられたまゝを行ひます。

亞米利加の子供は大ころか何かが育つやうに、極めて自然に育てられて來たので、こんな風に晴れやかで、ハキハキしてゐて、可愛いのであります。

私の學校でも、子供をなるべく自然に育てやうとして、あまりぐどぐどと小言をいはしないやうにして居ります。それで斯ういふ亞米利加流の教育のいゝ方面を知らない人々は私共のやつてゐることに不審を懷かれると見えまして、「貴校の訓練の御方針は」などと聞かれることが時々あります。私は何時も自分の信する所を以てお答へして居るのであります。が、一體廊下を歩く時は口を利いてはならぬなどと固苦しいことを言つて束縛する必

朝廊下で「君、鉛筆を忘れて來たから、一寸貸して呉れ給へ」位のことを言つたからといつて何も校風に悪影響を及ぼすといふ程の大問題でもありますまい、第一、こんなことを言つた日には、大人からして守れやしません。子供はほめられたいのが精一ぱいですから、デツと口を結んで、身體を固くして居りもしませう、小さな子供に物を言はせないやうにすることは朝飯前です、少しこわい顔をして「黙つてゐろ」と言ひさへすれば、それで済むではありませんか。それから又子供を放任して置くこともやさしいことであります、何を言はうと、爲やうと知らん顔をしてゐればいい、となつたら教師位樂なものはないであります。小言を言ひ過ぎず、さればといつて全くの放埒でないといふ、この即かず離れずの境に教育の妙諦があるのです。

を參觀してみると、頗る自由であります、この邊の小學校ではジョン・デュエイの原理に依つてゐるのであります。寸丈つてみたのでは今何の時間だか分りません、砂場で遊んでゐる者がある、山へ登つてゐる者がある、腹匂ひになつて繪本を眺めてゐる者がある、腰掛けを作るのだとつて鋸を振廻して居る者がある、女の子が机の上にあがつてあぐらをかいである、また斯ういつた有様であります、これがホレスマン、スクールとか何とか言つて、コロンビヤ大學の附屬小學校として有名な模範校なのであります。日本では女の子が机の上のつかつて胡座をかいてゐるところなぞが視學官に見附かれば校長は早速免職です、斯うした自由が幼稚園に於て行はれてゐるとでもいふのなら又おもしろいのですから、日本から行つた我々には大いに目新しかつたわけなのであります、それから授業の仕振

りなぞを見ましても日本とは大いに趣きを異にします。生徒は教へて貰ふと言ふよりも分らぬところを訊くと言つた方がよいのであります。

讀本を開いて先生が「何處か分らぬところはありますか」とさります、すると生徒は分らぬところを夫々に質問します、それで授業はどん／＼進んで行つて了ふのであります。^b 日本には教授細目などと言つて、途法もなく綿密な帳簿が出来てゐて、先生はこれによつて一々回答をしながら授業を進めて行くやうになつてゐます、しかしこれも考へてみればあまり效能のない話で、生徒が豫期してゐたやうな答をしない場合もあります、さういふ時は幾度もまわりくどい質問をして豫期した答を得て、それから後進んで行くといつたやうなことをしなければならなくなります、そこでかなりの労力と時間を費して作つた教授細目も、實際にはあまり役に立たないのであります。あちらには教授細目はありません、尤もコース・オヴ・ス

タデーといふ教授細目様のものはあります、うすつべらな冊子で、教授の進み方を極めて大要に亘つて記載してあるに過ぎません。

亞米利加では中學校、女學校になりますと、ディスカッショニ・システム（討論制）といふ方法によつて授業を進めてゆきます、すなはち生徒はその學ぶべき學科目を互ひに討議して研究して行くのであります、先生なぞは傍に立つてゐて、時々最後の判断を與へるに止まるのであります。國語がやさしく、教科書が面白く出來てゐますので、彼等はよろこんで自修して行きます。中學校以上になりますと學科は選擇に任されてゐますので、生徒は各々その好む所に従つて自學自修し、興味を以て自分の選擇學科に深入りをして行くことが出来るのであります。（未完）（文責在記者）

新入學の尋常一年生

幼稚園より小學校へ

東京女子高等師範學校附屬小學校

北澤種一

小學校といふものは何ういふものか、特に尋常

級としての方面からとであります。

一年生の生活は何ういふものであるか、この問題は幼稚園の保母の研究して置かなくてはならないものであります。學齢に達した幼兒を持つ家庭に於ても、等しく此の問題の重要なものであることは言ふまでもありません。

児童が尋常一年生として、始めて小學校に入學して來た時、學校では特に之を何ういふ風に取扱ふか、この事に就て次ぎに少しくお話してみたいと思ふのであります。

新入學の一年生を何う取扱ふかといふこの問題を説くには二つの方面から説くのが便利であるやうに思ひます。それは學校としての方面からと學

即ち多少規則的になつて居るのであります。この規則的生活といふことは五百人なり六百人なりの児童を集めて教育するといふことの爲めに當然起つて來たことではあります、一方又児童をして團體生活に馴れしめ、延いては社會生活の準備教育を受けしむるといふ教育的目的からも來て居るのであります。この二重の理由からして小學校は

先づ學校としての方面からこの問題を説きますと、學校は兒童を學校生活に順應させることを必要とします。學校生活といふものは兒童がこれまで経験して來たところの家庭生活若しくは幼稚園生活にくらべると比較的に規律が立つて居ります。

その托されたところの児童に對して規則的生活を要求するのであります。すなはち新入學の一年生と雖も、二年生以上の児童と同じやうに學び、遊ぶ時には遊ばなければならぬのであります。一年生ばかりが課業に飽きて了つたからと言つても規定の時間が來なければ無暗に室外へ出て嬉戯することは許されないと共に、遊びに集中して居ても課業の時が來れば直ちにこの遊びを中止して教室に入つて学ばなければならないのであります。

この一定した時間の規律を守らぬとそれが爲めに學校全體の生活が害を受けるといふことになります。それ故に學校では新入學の一年生に對しては成るべく早く規則的生活に馴れしめやうと努めるのであります。

一人の児童が惡習を持つてゐて、運動遊戯等の際に之を現すやうになつたことがありますと、これも學校全體に影響を及ぼしますから取締らなければなりません。家庭や幼稚園では氣附かれたな

かつた習慣も學校へ入ると、そこには既に一定の規律があるためにこれが目立つて、他の生徒達にも奇異の感じを懷かせることがあります。それ故學校は早くその生徒の持つてゐる特殊の習慣を無くすことに努めるのであります。これまで時間の方に於ても比較的の自由なる生活を家庭なり幼稚園なりで送つて來た幼兒は小學校へ來るとさう自由にばかりはしてゐられなくなるのであります。

それから又學校生活の中には教師といふもののが入つて來ます。從來は父母兄姉若しくは保姆の手にのみ委ねられてゐた児童は新たに教師といふものと接觸するやうになります、而してこの教師といふものは父母兄姉とも違へば保姆とも違ふものであります。從來のやうに面倒を見てくれる人々といふよりも教へ導いてくれる人が教師であります。教師の言ふとには服従しなければならぬといふことが児童によく理解され又實行されなければ學校生活といふものは行はれません。このとは學校

生活が行はれないから是非守らねばならぬといふことの他に服従といふ德目を養ふ上からも必要なことがあります。

それから又生徒同志は互ひに親愛しなければなりません。この親愛といふことがなくつては學校生活と稱する一種の社會生活は圓滑に運轉しなくなるのであります、この生徒同志互ひに親愛するといふことは家庭に於て比較的我儘に育つた子供には容易に出來ります。この點に於ては幼稚園を経て來た子供の方が餘程具合よく行くやうであります。同級の子供達と親しまなくて困るといふやうなことは幼稚園から來た子供には滅多にありません。

その他、一般に學校生活を快活な空氣を以て充たして置くといふことは教育上大切なことでありますて、新入生にもこの空氣に馴れしむることの必要であることは言ふまでもありません。作業するにも遊ぶにも、最も快活なる精神を以て之を爲すやうにしむけるのが小學校教師の爲すべき務めの一つであります。

幼稚園ではこの生徒同志の互ひの親愛といふことを小學校程には問題としてゐないと思ひます。幼稚園では強いて幼兒同志を親しませるとといふことが眼目ではないかも知れません。むしろ幼兒のめい／＼をして、その個性を發揮せしめ、本能の赴

くまゝに活動せしめることを以てその特色として居るのであります。併し小學校ではこの幼稚園の遣り方をそのまま踏襲するわけにはゆきません、小學校は矢張生徒同志の互ひの親愛といふことに力を盡し、將來の社會生活のために準備を作らなければならぬのであります、而してそれには無論一年生の時からこの習慣をつけるやうにしなければなりません。

その他、一般に學校生活を快活な空氣を以て充たして置くといふことは教育上大切なことでありますて、新入生にもこの空氣に馴れしむることの必要であることは言ふまでもありません。作業するにも遊ぶにも、最も快活なる精神を以て之を爲すやうにしむけるのが小學校教師の爲すべき務めの一つであります。

次ぎには少しく學級といふ方面から新入學の一年生を如何に取扱ふかといふことを述べてみませう。

學級とは同一年齢者を一かたまりの團體に集めて一人の教師が教へるのであります。所謂團體教授のことです。

團體教授は個人を對象とするところの個別教授とは異つて居りますので、團體を形づくる個々の児童が團體的學習が出来るやうな態度を持たねばなりません。といふのは一人の先生が一言いへば

それが全體の児童に通じるやうに、又一度何か見せればそれが全體の児童に漏れなく見えるといふやうにしなければならぬといふことであります。

そこで若し見えなかつたり、聞えなかつたりした場合には自から進んでも聞き直し、見直さうとする態度がなければなりません。家庭や幼稚園では比較的個人的の生活であつて、一人の人が一人の子を相手に話をするといふことの方が主に行はれてゐました、而してそれが又適當な方法であつたのであります。しかし小學校では之を行つて居るわけにゆきません。故に入學の最初からさうい

ふ練習をさせ、先生の一舉手一投足がすべての児童に漏れなく徹底することを期して居ります。かかる態度は却々一朝一夕には養成されません。けれども家庭や幼稚園で話を聞く練習をよくやつて居れば學校に來ても早くから團體的學習の態度をとり得るのであります。

家庭の躾けのよい子供、幼稚園で保育を十分に受けて來た子供は小學校ではあまり骨を折らずに團體的學習に適應させることができます。

今日の幼稚園といふものは幼兒の發表の能力を非常に尊重して居ますが、これは誠に結構なことであります。しかし團體生活に於ける一人として自己を如何に發表するかといふことに對しては幼兒といへども相當の考慮を費さなければならぬのであります。小學校では各児童が一定の規律の下に十分にその發表の能力を發揮することを望むのでありますが、他の児童の迷惑や教授の妨害になることをかまはずに、児童の發表能力の自由を

許すわけにはゆかないのです。

幼稚園を経て來た兒童は兎角この點に於て批難を受けるやうであります。幼稚園から來た子供には往々不規律に自己を發表する習慣が附いて居りまして、學校生活に早く順應することが出來ないものがあります。

要するに兒童を學級教授に適應させるといふことは教師の活動に對して兒童が目や耳を適當に順應させてゆくといふことであつて、これは兒童をして自發的に爾せしむることが教育的であるのであります。が、一年生といふやうな場合には矢張外部から制せられ、習慣づけられることによつて自己を學級教授に順應せしむる方が多いのであらます。

次ぎには學級教授の内容は如何といふ問題が起つて來るのであります。これは矢張既に細目によつて定つて居る所の教材を各の兒童に徹底せしめることであります。教材の中には深く研究すれば尙教授の時間といふやうなものも、學校全體の爲めから言つて何うも一年生ばかりに都合のいい、やうに時間を區割ることは六ヶ敷いことであります。一年生には少し時間が長過ぎると思ふやうな場合があつても學校管理の上から他の級の兒童の程度に合はぬものもあるかも知れません。しかし大體これまでの經驗によつて兒童に適當と思はれるものを並べて、これを順々に兒童に徹底させやうと努めるのであります。例へば或る兒童が嫌ふ教材であつても強いて學習させなければいけないといふやうな場合も起つて來るのは止むを得ない事であります。小學校といふところは單に兒童の機嫌取りに終始して能事終れりと爲すところではありませんから。

従つて兒童の方から言へば苦痛を忍んで順應しやうと努力する場合の起ることは言ふまでもありません。これは家庭や幼稚園に於ける自由な生活にはあまり見られないことであります。

尙教授の時間といふやうなものも、學校全體の爲めから言つて何うも一年生ばかりに都合のいい、やうに時間を區割することは六ヶ敷いことであります。一年生には少し時間が長過ぎると思ふやうな場合があつても學校管理の上から他の級の兒童

が教室に居る間は教室に居させなければなりません、而して漸々この規定の時間中は教室に居なければならぬといふことに馴れさせるのであります

言ふまでもなく小學校としては、この一單元の時間中注意を緊張させ、精神を旺んに活動させてゐる兒童が最もよい兒童といふことになるのであります。その時々の氣分とか感情とか言ふやうなものによつてのみ自分の行動を支配させてゆくといふやうなことは小學校に於ては許されないのであります。若しさういふ兒童があるとするならばそれは學級教授には適さない兒童といふより外はありません。

以上に述べたやうなことはすべての兒童に對して各々を皆凡ば等しい個性を持つものと認めた考へ方であります。實際に於ては一年生は各自個性の差異を持つて居ります。この差異の中には尊重すべきものもあるであらうし、又あまり顧慮を要しないものもありませう。乍併これを學級に順

應させるためには他の學年に於てするよりも新入學の一年に於てする方が一番效果的であるのであります、而して小學校ではこの目的を遂げるために他の學年に對して拂ふ注意の上に更に一層の注意を加へて一年生を取扱ひ、適切なる教育方法を講じようと努めるのであります。

幼稚園を経て小學校に入學した兒童の中にも鼻汁を垂してゐる子があつたり、目糞が溜つてゐる子があつたり、口をぱかんと開いてゐる子があつたりしますが、これでは何うも困ると思ひます。一體幼稚園で何をしてゐたか、家庭から直接に來た子と較べて何れだけ優れてゐるか、私達は疑無きを得ないのであります。「鼻汁をおかみなさい」「お口を塞いでいらつしやい」から小學校で教へて行かなければならぬのなら幼稚園は小學校の前に幼兒を預つてゐて如何の程度にまで幼兒の教育を爲したと敢へて言ふのでせうか、幼稚園を経ずに直接家庭から入學した兒童でも、家庭の躰けの

よかつた児童は鼻汁を垂してはゐません、目くそを溜めてはゐません。お口を開いてはゐません。

それから又小學校では児童に姿勢をよくすることを要求します、特に一年級では腰を掛けの時の姿勢をつくるといふ事が大切な仕事の一つとなつて居ります。これなども家庭の様子のよい子供は小學校へ來ていきなり椅子に腰をかけてもちやんと正しく腰を掛けます。

最後に小學校から幼稚園に對する希望を少しく述べてこの話を終らうと思ひます。

世界各國何處の小學校に於ても、児童が小學校へ入學した當初の數ヶ月間に於ては身體と精神との兩方面に故障を生ずるといふことが認められて居ります、即ち児童は疲労を感じたり、神經が過敏になつたりするのであります。このことは何に原因するかといふと、あらゆる學者の説は、生活形式の激變といふことが原因であるといふことに一致して居るのであります。

この點から考へますと幼稚園は幼兒が家庭から小學校へ行く途中の中、次ぎとして十分に存在の理由を保つものであるといふことは認められるのであります。即ち幼稚園は家庭と比較する時には幾分學校的であると共に、小學校と比較する時には幾分家庭的であるべきものではなからうかと思ひます。故に幼稚園を経て小學校に入學する児童は家庭から直接に小學校に入學する児童に較べて、早く小學校といふものに順應するといふ特色を持つてゐて然るべきであると思ひます。

然るに幼稚園が家庭と同じで全然社會的の訓練が届いてゐないで、幼稚園を経た児童も家庭から直接に小學校に入學した児童と同じやうに疲労を感じ、神經過敏になるやうでは折角幼稚園といふものへ通つた甲斐がないと思ひます。それ故に幼稚園では上の級の幼兒には團體生活の色彩を帶びさせ、それに必要な訓練を無論幼兒の程度に應じて施すことが肝要であると思ひます。（文責在記者）

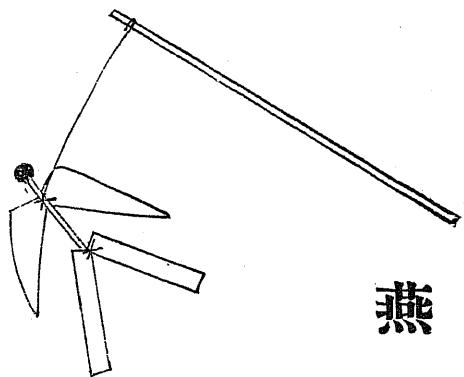
燕の玩具

東京女子高等師範學
校附屬幼稚園保母

は

る

子



大嵐の二日
後。空美しく晴

返事がありません。しかしにこくして私を見
てあります。

れ渡つて何とも
いへぬい、心持

なほ返事がありません。そして曰く。

のする朝でし

「私はどうも、これが（耳に手をあてゝ）聞えませ

た。頭も髪も銀のやうに美しく、そしていかにも

んでな。」

平和な人相をした、身なりの立派なお爺さんが、
面白い燕の玩具を竹の先につるして、ぐるり廻
しながら、田圃の方からやつて來て四角の所に來

やうな大きな聲をぱり上けて前の間を繰りかへし
ました。

「え、え賣ります。」

「いくら？」

「二錢でござります。」

「赤いのを上げませうか、黒いのを上げませうか」
來た私は突然聞きました。

椎の木の前の母の家へと行きかけて丁度そこへ
「それは賣るんですか。」

はい／＼、い＼＼のを見て上げませう。」

持つて居る幾つかの中から、なるべく具合のいいのを探して居ります。私はその間に門の内にかけこんで母を呼びました。

「おもしろいお爺さんが來たからいらつしやい。」

「おや／＼。」

と云つて母が出て来ました。ついで父も出て来ました。

「これはおもしろい私が買つてやらう。」

父が二錢の銅貨と交換してお爺さんの選んでくれた赤い燕を持つて家にはいました。

「さやうなち。」

とお爺さんが壊れた垣根の横を行きかけた時。

「もう一つ頂戴。」

と私は思ひ出したやうに叫びました。我ながらその聲の大きかつたのに驚きました。

「はい／＼また赤いのを上げませう。お小さい方は赤いのに限ります。私は、な、今年は八十八歳に

なります。この通りの白髪です。それでな。記念にこれを作りました。この繪具丈でも二錢はかります。まうけ等は少しもないんですがね。お子さん達を喜ばして上げやうと思つて、かうして少しづゝ作つては持つて賣つて歩きます。」

「まあ。」

「この繪具はな、五年前に買つて置きました。その時は一斤一圓二十錢でしたがね。今ではもう十四圓ださうです。たつた五年の間に、十三圓あがりました。ハハーおどろきますな。」

「おや／＼まあ。」

と云ひながら、今度は私が壊れた垣根ごしに受取りました。

「どうもありがたう。」

とお爺さんは向うに行つてしまひました。

私は一つをうちの赤坊において、一つを持つて幼稚園にと急ぎました。あのお爺さんの平和な顔と味のある言葉は、いつまでも／＼私の心の中を占領して居りました。

○燕のおもちゃの作り方。

先づ次のやうな材料をとへます。

一、翼の紙……畫用紙位の厚さのもの。

二、尾の紙……畫用紙にあつい半紙でうらうち

をした位の厚さのもの。翼も尾

も色は任意です。配合よくえら
ぶときれいです。

三、短い竹……筆の柄位のなるべく穴の太い竹
を一寸二分位にきつたもの。(但
寸法は凡てかねざしとす)

四、太いヒゴ……三寸位の長さ。

五、黒豆或はむくろじの實。頭にするもの。えん
豆を黒く塗つてもよろし。

六、少量の粘土……腹につけるもの。

七、糸……普通の木綿縫糸にてよろし。翼
や尾を縫ひつけたり竹につるし
たりする時つかうもの。

八、竹……二尺位の細竹。

最初に翼と尾をきりぬきます。翼は  こんな形です。幅(最もひろい所下)は一寸二分位です。尾は  こんな形です。長さは矢張三寸幅は七分位です。

剪りましたら翼は  この圖のやうに縫ひ合せて
その糸で短い竹(材料番號三)に縫ひつけます。尾
も亦  かうして縫ひ合せてヒゴの一端に縫ひつけます。此のヒゴを翼を縫ひつけた竹に通してそ
の先に頭をつけます此の翼や尾はなるべくひろげ
て縫ひ合せるとよくまはります。

次に腹になる部分(短い竹)に粘土をつけます。
この粘土のつけ方が大變大事です。その重さがこ
の玩具がよくまはるや否やに最も深い關係を持ち
ますから。それはなれて來ますと手加減でよくわ
かりますが、はじめはまはして見ては訂正を加へ
る他ありません。まあほんの少しつける丈です。

最後に脊中から糸をつけて細竹につるします。
これで燕は出来上りました。具合よく出来ます。

と善い音がしてよくまはつて大變おもしろうござ
います。

三月と兒童

村尾節三述

三月と兒童と云はレ先づ雛遊に指を屈すべけれど雛遊に就ては書冊にも由來を記し好事家の研究もあれば暫らく此には略し唯二三特殊なる行事を述ぶべし。

因州鳥取市にては雛荒しと稱し舊暦の三月三日に雛を飾りたる家に「雛さん見せてつかい、ついでにおいりをつかい」と連呼して數名の男兒組をなして座敷に入りて座す家人は方言にておいりと云ふ豆炒に似たるもの紙に包みて與ふ若し與へざれば歸らざるの風あり。

阿波の徳島にては節供の日辨當を携へて古來の名將の名を記したる細長き旗を作りうなぎ幟と稱

して押立て「よいサアエ、よい〜、馬が物いふて、よい〜」と極めて緩に謠ひて大瀧山に登り辨當を開きて食ひ打興じつゝ遊べり又筑前國の一地方にては節供の翌日に「だんごろだろ」と云ひて子供は團子及辨當を作りて春の野邊に行き一日の行樂を恣にして過すことあり又會津耶麻郡の山都地方にては此月十五日に花祭と稱し子供に親或は兄弟等辨當を作りて與ふ子供等は互に友達を誘ひて郊外に赴き蓮華草さく畑に入り辨當を開き終日歡を盡して歸り櫻花の盛りにも花見をすることなし。

伊豆の新島にては初め舊暦二月十五日に流鏑馬式を行ひしが現今にては三月十五日に行ふことに

改めたり此式には兩親ある十三四歳以下の子供を潔齋の爲め十四日の夜より社務所に宿泊せしめ其日には麻上下を著け大小を佩かしめ惠方に向つて其を弓引き各一人にて矢を六十六本宛を射り終つて其矢を一本宛を持ちて家に歸り屋根裏に插すの風あり。

以上述べたる所にて雑荒しの惡慣習は他所にも類似の事あり宜しく制止すべき事なれども郊外に赴き山に登る等は都會はさらなり地方にても行ひて普及したき行事ならずや

○大正幼年唱歌集の完成

葛原幽氏作歌の大正幼年唱歌集は今度いよ／＼

第十二集が發兌されて、同唱歌集は完成の運びに至りました。葛原氏の同唱歌集に對してのお骨折

は我が國の保育界に渺からぬ便益を與へて居ります。記者は同唱歌集の完成を喜ぶと共に、この際全集の目次を次ぎに掲げて置きたく思ひます。

第一集		第二集		第三集		第四集		第五集	
一〇かくれんぼ	一蝶と春風	一噴水	一小さな鯉	一〇せみ	一お月様	一汽車	一木舟泥舟	一〇かたつむり	一月一日
二さくら	二お庭の草花	二ほたる	二蟲のこえ	二五	二天長節	二音機	二腰掛	二ごもん	二雙六遊び
三飛行機	三シャボン玉	三シヤボン玉	三蓄音機	三五	三運動會の朝	三活動寫眞	三活動寫眞	三おべんたう	三紀元節
四アノ馬	四ブランコ	四アランコ	四掛	四八	四天鵝	四鶴	四猫	四お山	四かたつむり
五私の先生	五シヤボン玉	五アランコ	五掛	五九	五梅に驚	五梅に驚	五梅に驚	五董だんばほ	五董だんばほ
六人形	六ストオヴ	六ストオヴ	六木	六九	六積木	六積木	六積木	六雜子	六雜子
七藤の花	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八人形	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九飛行船	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十船	十	十	十	十	十	十	十	十	十

一〇鬼が島

第六集

一木

一水車

四七面鳥

四七夕立

一〇竹馬

二五向日葵

二八浦島太郎

二九夏休み

三六虹とんぼ

三八虹

三九夏休み

三六とんぼ

二五お祭り

二八お客様

二九菊象

二九雁

二九軍艦

二九軍

二九あられ

二九雲

二九雲

二九雲

二九雲

幼兒訓練の標的(一)

幼兒訓練の標的に就て、各所の幼稚園へお尋ね致しましたところ、御熱心にお答へ下さいまして有難う御座います。この問題は非常に重要な問題でありますから、今後ともお互ひに十分の攻究を要することと思ひます。尙この問題に關して多くの方から御見がうかゝれば幸であります。次ぎに掲載いたしました各園の御回答は次第不同であります。

四時

七朝

一〇雛まつり

四自動車

一文福茶釜

二記念日

三五蝶のぼり

四駄駄

五蟻のぼり

六電話

七騒

八蝶のぼり

九電話

十計

一一時

一二駄駄

五

六

七

八

九

十

十一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

一十

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

一八

一九

一十

一一

一二

一三

一四

一五

イルミネーション

スティシヨン

大坂市 本田幼稚園

幼稚園に於ける幼兒訓練は幼兒の凡ての蠻的感
情生活より人的意志生活に近付かしむる様に教育
することで換言すれば幼兒の本能的諸能力の萌芽
の發生を看過せざるやうに注意し之を適切に助長
せしむることを旨とする事に外ならぬので有ります
す、故に何れの方面に於ても圓滿に發達せしむる
様に訓練に努めて居ります故何れの部分に特に重
きを置くと云ふ事は申兼ねます。幼兒訓練は口先
では決して出來得べき者でない事は申すまでも無

き事で有ります、故に幼兒訓練の暗示者たる保母
自身をして左記の事項に就きて特に注意して實行
につとめ以て幼兒訓練に價するやうに暗示を與へ
て居ります。

一、快活にして眞面目なること

二、清潔にして質素なること

三、熱心にして感情に走らざること

四、敏捷にして活潑なること

五、誠實にして親切なること

大坂市北大江幼稚園

御尋ねの訓練上の標的に就ては我が園にては左
の點に最も注意致し居候。

一、正直 二、從順 三、友愛 四、清潔
整頓 五、獨立心

京都市 乾隆幼稚園

御會よりの御尋ねに對し弊園にては幼兒訓練上

の眼目は「誠實」(幼兒に相應した)と云ふ事を標的

として居ります。

誠實であれば忠にもなり孝にもなり、又お友達に對して友愛ともなりますから。元來當地方は物事兔角輕薄にしてすべての點に於て不眞面目な事が多くありますから特に誠實を標的とした理由で御座います。

尙當地方の幼兒として特に注意して訓練せねば

ならぬ事は「正直」と「勤勉」の風を養ふにありま
すから本園では特に誠實の下に此の點に力を注
いで居ります。

右申述べました様な次第で御尋ねの本園の訓練
上の標的とては唯だ誠實の二字に外ならぬのであ
ります。（大正七年二月十八日）

大坂市 芦池幼稚園

一、善良なる習慣を與ふること。

幼兒の生活に副ふて環境を整へ道徳的基調を養
ひ規律、整頓等に對して快感を覚えしむること

一、自治心を養ふこと。

年齢に應じ機會を利用して刺激を與へ自發的に
自治の心を起さしむること

岡山縣 女子師範學校附屬幼稚園

幼兒の訓練上注意を要すべき點は一二に止まらず候へ共、其中最も重要な事項と考へ居候點を左に申述べ候

一、消極的方面

元來幼兒は何事をなすに當りても自己の全人格
を發露して猛進し決して他意なきものに候かく
自己に忠實なるは幼兒の自然にして單純無垢真
に愛すべき點と存じ候、されば教育の基礎たる

幼兒の訓練に於ては努めて此美點を尊重し其保護啓培に格別の留意を要すべきものと信じ居候

二、積極的方面

保母の理想によりて幼兒を指導する方面につき特に留意致し居候點は

(イ) 幼兒をして其偽りなき精神生活を遺憾な



兵庫縣明石女子師範學校附屬幼稚園

當園では主として次の諸項に注意して居ります

一、従順

長上の命は一度できくこと

僕婢を困らさぬこと

衣服を選まないこと

お辦當のおかずを選り好みしないこと

二、獨立

自分の携帶品は自分で仕末すること

日常生活練習として時々手拭の摺み方、かけ方

足袋こはせかけ、まんとのきあひ、前掛のかけ

く發顯せしめて其真相を捉へ是非を分ちそが基礎の上に訓練上の諸方法を設定すべき事

(ロ) 保母も又自己の全人格を發露して彼等に同化し協力以て共に理想に向つて専心進まんとする態度に出づべきこと

あひ等競争的に且つ遊戯的にして居りますがよほど興味がある様に思はれます

三、勇氣

些細のこと泣かないこと

名を呼ばれし時は明瞭に返事すること

お天氣の悪い時でも登園すること

四、忍耐

何事も中途でやめないこと

物事を安りに出来ぬと云はないこと

寒い時懐手しないこと

時々辛抱くらべをして居ります

例へば

(イ) 時計と辛抱くらべ (凡そ一分乃至三分間)

沈黙)

(ロ) どんぐり、豌豆、小豆を適宜箱に入れ置

き箸にて他の箱に移すこと

五、整頓

遊具を打ち捨てにしないこと

紙屑をちらさないこと

下駄箱机中を綺麗にすること



御問合せに付きまして本園のとりつゝある大要を申上ます。

心もつよく身體もすこやかにのびくと育て上げたいと思ひますが第一の希望であります。

幼稚園は幼兒等の一小社會でありますから各兒自由の内にも夫れ相當の規律は守らせたく又其規律ある中にも成るべく個性の活動を害はぬ様

作業の後使用したる諸道具の後仕末を順序よくすること

六、禮儀

お辨當其他ものをいたゞきし時は丁寧にお禮をする

配る時は両手で丁寧にすること

挨拶の仕方 (朝禮、歸禮、途中あひし時) (お客様による)

言語は丁寧上品で明瞭にすること (特に注意して居ります)

番町尋常小學校附屬幼稚園

務めてをります。

幼兒の我儘は各國とともに同じでありますが特に日本の幼兒は他人の迷惑を一向に感じません加之稍もすると争鬭を好みますが殆んど共通點かと思はれます本園では此個性の癖をなほしつづめめて共同的和樂の精神を養ふ事に務めて居ります。

今一つは兎角に依頼心の強いことあります。夫故に自分等の使用せし物品は各自に始末せしることを大切の務めの一つと致して居ります。夫は亦妙に愛他心の強ひ處もありますので、(動物や友達などに對して)此の同情心の萌芽を發育させて他人は勿論動植物にも親切と愛情とをつくすやう養ひたく心掛て居ります。

以上の標的をもちまして家庭とも連絡をとり(本校小學の初學年)とも關係を保ちつゝ日常向上を務めて居ります。

一、健全なる身體の發育を遂げしむること。
前に述ました意味を簡單の項目に換へませば左の通りであります。

動物園あそびの記

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園保母

と

よ

子

鳥や獸の標本が其丸い眼を見張つたきり、昨日も今日もおなじ様に硝子戸棚の中に立ち並んでゐる。あれを利用して動物園を作つたらとの説が出て、さて作らうとはしたが標本だけでは餘りに殺

風景である。餘りに單調である。子供は象が好きである。獅子も好きである。虎も、熊も大きさである。水族館も親しいものである。どうかしてこれ等も作りたいものである。切符や入場券を賣る

二、幼兒の心情をくみ善良の習慣を養ふこと。

三、夫々の個性に従い満足を與へ活動させること。

四、規律はよく守らせ然し自由はそくばくせぬ事。

五、自分の事は年齢相當に自身に始末させ個性の癖をなほすことを務めます。

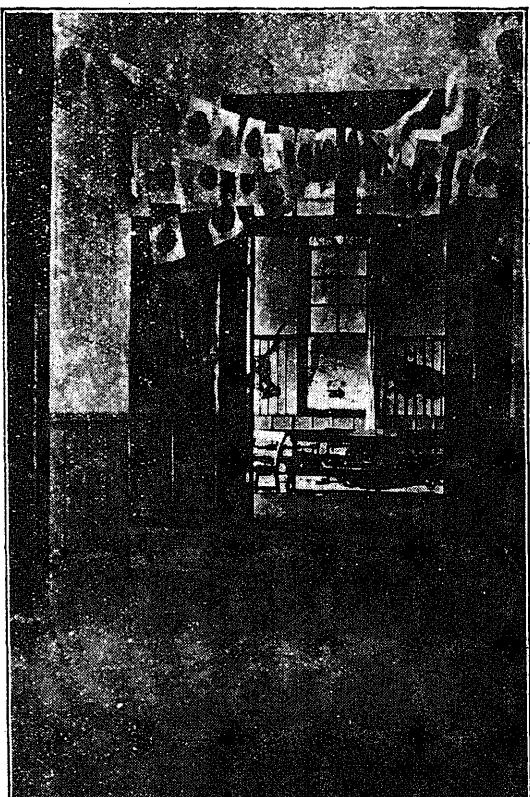
六、言語は明晰に姿勢は尤も正しくせしむること。

七、感覺の練習をつとめその成長に適せる心の發達を遂げ共同的和樂の精神を養ふこと。

八、幼兒の模倣性を利用し實際の事例に依りて自然に善良の行爲に導く事。

九、本校(小學初學年)との關係を保ち各兒の家庭と連絡を取りつゝあること。

事の好きな人に入場券賣もさせて見たい。入口も賑はしく飾つて見たい。子供等の小さき弟妹が見物に來た時に動物園みやげもやりたいと、考は其場所にと充てられた遊戯室の隅から隅へ、壁から壁へと次第に擴がつて行く。次第に濃くなつて行く。とうとう象、獅子、虎、熊、駒鳥の五つは壁畫で補ふこととした。それで其五つと入口左右の壁裏表に貼るための森四



めた。殆んど實物大の象を描かうといふ、なかなか大變な事である。其の輪廓をともだけでも大變である。大きな刷毛で思ひ切り大きく書いてある。細かい所が分らなくなればわざと動物園に見に行く。かく迄して一生懸命に書いた。其尊き本真剣な努力。子供は之を見た。實に之を見た。單に繪の進行のみを見たのではなかつた。「象はまだかなあ」と毎日の様に待ち遠しがられながら、象は一日一日と形と色とを成して行つた。「僕は早く象が剪りたいなあ、まだかなあ」と、とんでもない時に鉄を握つて待ち

詫びた子供もあつた。愈々象が出来上つたとなると、其悦びは一通りでない。「象が出来ましたよ」と云へば、見れさ、剪りたさに、何もかも捨て、慌て出した。やがて遊戯室に廣く座が敷かれ、其上に象が擴げられた。「やや大きいなあ」「先生剪らせて下さい」「僕も剪らせて下さい」「僕、鼻ツと」「僕あたまツと」「僕脚ツと」「僕背中ツと」各自が欲する所を申出して、鍼を握つて座つた。「先生に更に範圍をきめて貰つて、各自剪り始めた。何れもベストを盡さうと鉛の様な眼を見張つて夢中になつて剪つてゐる。座つてゐるもの、足を出してゐるもの、腹這ひになつてゐるもの、其とりどりな姿に力が籠る。大きな象を小さな人が八人がゝりで丸で象に吸ひ込まれた様になつて剪つてゐる。何と云ふ尊い光景であらう。やがて七八分したかと思ふ頃、象は紙から抜け出した。子供も夢中、大人も夢中、壁に掲げて見なければ承知が出来ない取敢えず假に正面の壁に掲げられた。先生は此時

子供がどんなに悦んだか、其れを見、其れを悦ぶ餘裕もなく、自分が先づ象に釣り込まれてしまつた。象は左に右に上に下に動かされ、なかなか位置が定まらぬ。四肢の下の方は柵にかくれて見えないことに対する筈であつた象は、とうく繪書きの先生に繼ぎ脚をせられ、床迄引き降されて、先生も象も初めて落付いた。長い鼻には一握りの糞が巻き上げられ、本當の象の様な氣がした。象はかくして遂に出来上つた。ほんとうに生きて居る様に出来上つた。駄鳥、獅子も、虎も、熊も同じ様にして作られた。虎の脚の趾を剪り殺いだとして泣き真似遊をしてゐる子供の群もあつた。獅子、虎、熊、には紙製の檻も添へられたので、すつかり動物園らしくなつた。

これ等の騒ぎの中で、お土産用の風車を作つた人も多かつた、赤や紫や緑の紙で風車を作り、それに「ドウブツエンミヤゲ」と覺束なげに、しかし全力を擧げて子供が書いた小さな紙の札が附け

られた。そして出来上つた澤山の風車は目が醒む

る様に美しく籠に盛られた、二籠も。

入場券も子供

が作つた。幅二

寸、長さ三寸位

の紙に猫の型紙

を貼りつけ「入

デヤウケン」と、

これも子供が書

いた。

此日は土曜日

であつた爲め、

子供を早くかへ

さなければなら

ぬ。仕方なしに

十一時半頃にか

へした。あさつてを樂しみに待たせて。さて午後
になつてから先生は月曜日を待ちかねてとうく

總出になつて動物園を作り始めた。

ありだけの標本は運ばれ清く塵を拂はれた。大

きな鳥と獸は

壁畫の森を背景

に卓子の上に並

べられ、各の間

は積木でしきら

れた。水禽類は

中央の池に游が

せられた。池は

略圓形に水色の

紙を敷き周圍は

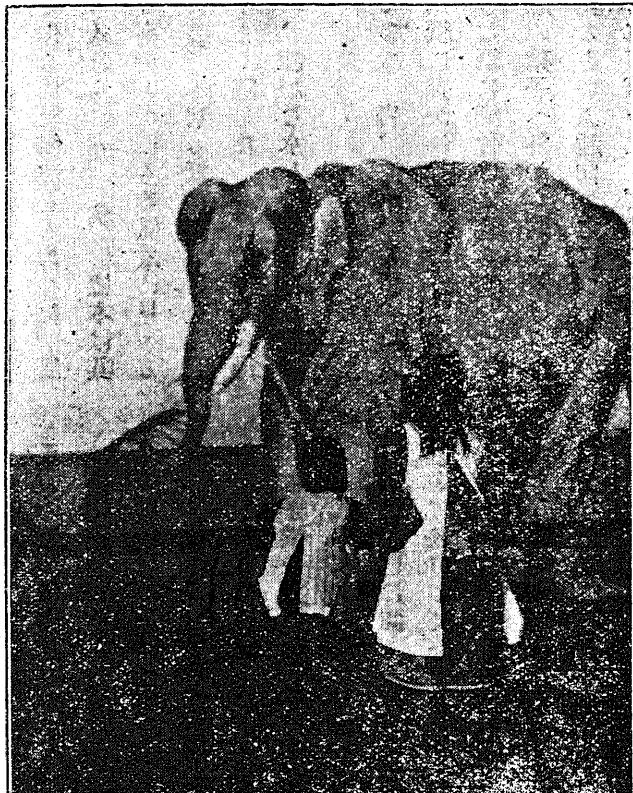
長き腰掛で圍

み、真中に大積

木の箱（約九寸

立方）六個を

以て積まれた水禽の家を作り、其中には藁を敷
き、四方には積木で段々を積み、屋根も亦積木で



作つた。標本の水禽に比べてはいかにも小さい家でありながら、それでも少しも不調和に見え無かつたのも不思議である。池の片隅には庭から拾つて來た小さい樋で作られた餌流しもあつた。餌入れには生きた鱈も入れられた。禽の標本は其脚の下について居る臺がいかにも殺風景に見るので、これは水になつて居る紙に切れ目をこしらへて、其の下へうまく隠した。禽は恰も人待ち顔に、餌待ち顔に、静かな水を游いでゐる様に見える。

次は水族館作りである。岩、海草、章魚、烏賊いろいろの魚は畫用紙に畫かれ、剪り抜かれ、水色に探色せられた大きな紙に糊付けにせられた。これがやがて三つの窓の硝子へ外から貼り附けられた。硝子を通して見るといふ趣向が之についての工夫であつた。單に水族館を見るだけでは物足りないといふことになつて、丁度他の部屋に作つてあつた魚釣場を此所へ移すことにした。それには

水族館の下の一隅を三角形にかこんで、其中に水色の紙を敷き、石炭利用の岩、實物の榮螺などを配置して海が出来上つたのである。其の海に玩具や手製の魚が澤山游いで居る。その魚の一つ／＼には口に針金の小さい環が附けられて居る。釣針を此の口にひつかけて釣らせようといふのである。海岸には細竹で作つた釣竿十數本と、釣り上げた魚を入れる爲の籠とが準備されて、その傍に、これも子供の書いた「ドナ・タ・デモオツリクダサイ」といふ札が掲げられた。氣がついて見れば短き冬の日は此時已に傾きかけてゐた。先生達は小鳥の配置と、入口の裝飾とをあさつて残して、一先づ引き上げた。三分の二出來上つた動物園の夕闇に大きな象が一層ほんものらしく浮上つて居るのを自分ながら感心しながら。

月曜日の朝早くから入口の裝飾に取りかゝつた豫て子供と一緒に作つて置いた半紙大の國旗七八枚を紐に繋いで入口の中央から左右にかけ渡し

た。赤い日の丸は背景の森の緑に映えて一段と美しく輝いた。そして、動物園

開園日の楽しい氣分をぐつと引き立てた。入口の柱には「お茶の水どうぶつ園」と、子供の字の力の籠つて達筆なこと。

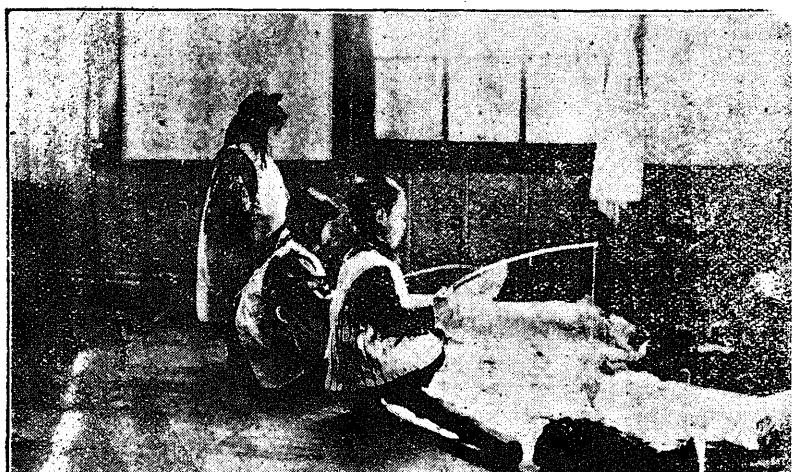
次の仕事は小鳥の配置である。いろいろ工夫した末に、グランドピアノの上に毛布一枚、濃い緑の蚊帳三張りを使つて小山を作つた。そして所々に盆栽と、ほんものゝ、雀とをあしらつた。其小山の上に、小山の上の木々の枝に、可愛い小鳥はそれゝ其の性に合ふ様な適當の姿勢に配置せられた。歌つて居る様なの

もある。餌をあさつて居る様なのもある。

これでまあやつとのことに

動物園が完成せられた床は清く拭はれ、窓は正しく開かれ、いかにも氣持よく整頓せられた。園内の動物はどれもく朝の空氣に生々してゐる様に見える。

やがて動物園の開園といふ段になる。子供は先生と一緒に見物に來た。「入口」と書いた左側から入つて左へと廻つた。無言で驚きの眼を張つてゐる鳥、鶴、雉、鶏、梟、鷹と順々に見て部屋の角を曲れば水族館である。好きな章魚も居る。きれいな珊瑚もある。鯛も比



良目もとびうをも水母も游いでゐる。列を作つた澤山の可愛い、目がいかにも珍らしそうに憲硝子製水族館を覗いて廻る。次には魚釣場である。此所は又一層の面白さであるこれだけは上野の動物園にもない新装置である。小さい釣手は代る代る魚を釣る。容易にはかゝらない。其の代り釣れた時の嬉しさは本當の魚を釣つた様な得意な顔をして竿を上げて居る。又角を曲ると、熊、虎、獅子、それから駄鳥が居る。駄鳥の他はしつかり檻に入れられて居るので流石の猛獸も怖ろしくない。

こゝは男の子の大評判。「先生、動物園がおしまひになつたら僕に虎と獅子とを下さい」「僕に駄鳥と熊とを下さい」と先生にねだつた小さい熱心家もあつた。之等を見終ると次は小鳥の山である。鳩、雀、雲雀、鶯、ツグミ、セキレイ、ヒヨドリ、燕、鷦等十六七羽もが楽しげに群つてゐる。ここには女の子が大勢「可愛いのねえ」といひながら立止つて居る。次が象である。象大王である。

小さい人達は其前にくると一層小さく見える。その小さい來觀者が首を上下に動して頻りに見上げ見下ろしてゐる。何といつても子供の一一番好きな象である。動物園中最傑作の象である。男の子も女の子も、こゝに集つたきり動かないのも無理はない。其傍に用意せられてあつた餌皿の鹽煎餅はいつの間にか象に投げられてゐた。猿の餌のお芋や胡蘿蔔までも、鳩の豆までも大變な人氣である。

此所で遊び足りた次は、栗鼠、兎、狸、猿である。猿は手や足に胡蘿蔔とお芋とを持たせられてゐた兎の背中をそつと撫で、見る子供もあつた。斯う順々に見て來て。おしまいが中央の水禽の池になる鴨、鷺、鴛鴦、鷺、鶴、雁、などが悠々と游いでゐる。子供は池の周圍に置かれた腰掛に縋つて池を覗き込んで居る。「生きた鮓がある」とふれ歩いてゐる人もあつた。實際に餌を流させる事の出来なかつたのは殘念であつた。餌待ち顔に柵の傍に立つて居る鷺や鴨を見た時は實際大人でも一寸

餌を流して見たい様な氣がした。

かうして静に丁寧に一巡した後、其後は勝手に思ひ／＼に幾度も見物を繰り返した。本當の動物園に來た様な氣分がして居るらしかつた。其中に繪の好きな子は此所で動物の寫生を始めた。小さい板の上に紙を載せ、所々のベンチに腰をかけて好きなものを寫生してゐた。一番多く寫生されたのは象で、駝鳥、虎、兎、猿、鶯もなか／＼人氣を集めて居た。又或日は此所で遊戯や唱歌もした。山の奥のピテノから色々の唱歌が響いてくるのも言ふに言はれぬ面白さであつた。蛙になつてお池の中を跳んだり、海岸に行つては海の歌をうたつたり、小山の前に並んでは鳩、鶯、雀、雲雀などの唱歌をうたひ又遊戯をした。或る日は又腰かけて象のお話も聞いた。それがどんなに珍らしく面白かつたらう。唱ひなれた歌も遊びなれた遊戯もいつもとは違つた新らしいものになつた。

開園の翌日には本校、附屬高等女學校、附屬小

學校等に動物園案内が掲示せられた。やがて動物園にも、廊下にも大きい足音や小さい足音か賑はしくなつた。中には小學校の團體見物もあつた。子供のお母さんや小さき弟妹の影も見え出した。幼稚園は恰もお祭り、しかも大祭りの様な賑かさであつた。おみやげの風車はすぐに無くなつて幾度も／＼作り足された。他所の幼稚園の小さい方々も先生に連れられて、わざ／＼此動物園へ遊びにいらした。そのお客様からは自ら採集せられた澤山の種子や、五年前に挿木にしたのが今は立派に花の咲いた柳の大きな枝などをお土産に戴いた何と云ふ美しい尊いお土産であらう。動物園へ植物園から贈り物よなどと言つて喜んだ人もあつた時間は短かつたが、それでも楽しそうに遊んで頂いて、子供も大人も象も水母も。此珍らしいお客様をどんなにか悦んだ事であらう。

かくして二月四日から九日まで、全園何れも動物園の人となつて遊び暮した。最後の日、この樂

しがつた遊を偲ぶよすがにもと、象を始めあれやこれやと寫眞にとつて、わが大動物園は静かに閉ぢられた。

森といつしょに大事に卷いて仕舞はれた。象よ虎よ、獅子よ、さきくあれ。またの日まで。さらば。

○此の動物園の保育上の意義

一、幼児の喜び樂しむこと。

二、幼稚園生活の或は單調に流れ易きに對する適當の變化。

三、動物剝製標本の幼児教育的使用の一法。

四、幼稚園に於ては幼児をして製作作業せしむるのみならず、教育者自身が興味を以て一生懸命製作する處のものを（此動物園は保母教生の工夫努力になる）幼児をして之も熱心に見せしむるも亦保育上大に價値あり。之れ此動物園の準備設置の間に於て著しく立證せられし事なり。

五、獅子、虎等の諸動物、殊に象の如き大動物の切ぬきは幼児の作業として規模の雄大なるこ

と。（此の諸動物は幼児をして共同的に切ぬかしめたり。象の如きは約七人にて五六分を要し、幼児の最も喜べる處なり。）

六、此の動物園は當校内一般の觀覽を案内し、又幼児の弟妹等の來觀を迎へたり。自分達の愉快とする處のものを多勢の人の賞觀に供するといふことは、幼児達に快適にして社交的ななる一種の祭典的喜悅を經驗せしむるに於て頗るよき機會となれり。

七、幼児をして此の動物園に寫生を試みしめ、又之に關する談話及遊戲を試みしめ平日の描き方話し方遊戯等の場合と殊れる結果を得しは、初の計畫に思ひ設けざりし一種の利用法なりき。

○玉成保母養成所生徒集
四月十日より新學期を開始する玉成保母養成所にては目下生徒を募集しつゝあり。詳細は麿町區土手三番町十六玉成保母養成所宛照會すべし。

○土川氏「律動的遊戲」

土川氏著「律動的遊戲」は先般再版を重ね、伴奏を附したり。
同第二集近刊の筈。尙同氏著「たまつなぎ」「六色三體つなぎ」の理論と使い方もフレーベル館より近々發行の筈。

会 告

- 會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時
の御名前へと御同一になし下され度く、
假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の
御名前へにて會費御拂込み等のことなき様
必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき
右特に御注意願候
- 會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確
實に御納付下され度向後萬一御不納久しき
に亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致
候間左様御含み置願候
- 會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願
報煩し度候
- 萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一
報

本誌定價

一冊 郵稅共金拾參錢 六冊前金郵稅共七拾貳錢
拾二冊同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替時金にて御拂
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六
番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く頼ひます

・庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學
校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

・本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正七年三月十日發行
本會宛
印 刷 者 東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者 東京市本所區番場町四番地
倉 橋 惣 三

大正七年三月十日發行

印 刷 者 東京市本所區番場町四番地
功 力

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所 フレーベル會

新學期の御準備に備

在籍簿用紙 半紙判 百枚金七拾錢

幼兒、保護者の身元、出席度數表、身體の狀況、在園中の個性研究事項等、明瞭且つ丁寧に出來てゐます。

保育豫定案兼保育日誌半紙判クロース製本(年分)壹冊金壹圓貳拾錢

談話、手技手工、運動遊戲、唱歌、玩具標本繪畫の實驗觀察等の項目が挙げてありますから豫定も日誌も容易に記入が出来る様になつて居ます

出席簿用紙 美濃判 百枚金壹圓二十錢

幼稚園のために特に研究せられたものであつて記入し易く且月末統計は最も明細に出來てゐます

幼稚園通告表 折り畳み式 百人分金四圓五拾錢

家幼稚園
保姆、幼兒の氏名、出缺表、身體検査表等の明細なる欄の設けあり通信事項記載欄は鮮明な
る野線を以てし一ヶ年間使用に堪ゆる様上鳥の子紙に印刷してあります。
弊館發賣の諸帳簿用紙は各園に於て研究せられしものを取捨せしものにて記入方の容易なるを特色とします。

保育用品發賣元

東京市麹町區三番町

フ レ ー ベ ル 館

振替 東京 一九六四〇
電話 番町 二九〇九

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)
婦人と子ども 第十八卷第三號 大正七年三月十日發行 本濟

印刷所

凸版印刷株式會社 本所分工場